

甲南21クリエイティブ・プランって？

学生たちから広く企画プランを募集し、優秀なアイデアには大学が援助を行うという「甲南21クリエイティブ・プラン」。

たとえばボランティア活動、ベンチャー事業…2004年度も、さまざまなプロジェクトが名乗りをあげました。

ここでは採択された3つのプランを紹介します。

Plan.1

パソコン再生と情報ボランティア活動

経済学部経済学科 佐藤ゼミ 古川篤志さん 他14名

大学の学内で処分されるパソコンを回収し、故障箇所を修理したりソフトをインストールして再生、それらを地域の保育所やNPO団体などで有効利用してもらうためにボランティアで提供する…古川さんたちの活動は「リサイクル」と「コミュニティ」を融合した、まさに現代社会のニーズにふさわしいもの。「今、パソコンの進化はめざましく、4～5年前の機種が古い型として処分されています。まだまだ使えるそんなパソコンの利用法を考えていた時、“公立の保育所は予算などの関係で、パソコン環境が遅れている”という話を聞いたんです」と古川さん。大学の教室や教授の研究室でパソコンが処分されると聞けば引き取りに向き、再生が完了すると保育所や施設などに直接アプローチしてパソコンを届けます。設置や指導などの「アフターフォロー」も行い、これまでに10近くの施設の「IT化」に貢献しています。



Plan.2

甲南大学発、生きたバイオテクノロジー体験学習の開発・提供

理工学部生物学科 大学院生 中村瞳さん 他4名

植物に含まれる「プロトプラスト」は、遺伝子操作などに使われる細胞で、バイオテクノロジーの世界でも注目されています。中村さんたちの研究室では、このプロトプラストを簡単に取り出し、細胞の融合を観察できる画期的な「実験キット」を開発。「高校の生物の授業でも、最先端の実験ができる」このキットを、全国の高校などに提供するという試みが、今回のプランです。現在はホームページ上で告知したり、高校の先生を招待した体験イベントなどを行っていますが、評判は上々で注文も殺到中。「このキットを使うことで、バイオの世界を身近に感じてもらいたい。」と中村さん。これをきっかけに生物学の面白さに目覚める高校生も、いるかもしれませんね。

Plan.3

環境創造活動の推進と環境教育モデルプログラム・教材の作成

文学部人間科学科 谷口ゼミ 北村大輔さん 他30名

環境問題を研究する谷口ゼミのメンバーによるプランは、「循環型コミュニティの創造」をめざした多角的かつアクティブな活動。例えば広野の野外施設で4泊5日の自給自足生活を体験し、文明に依存している生活を見直す。例えば無農薬の米や野菜を育て収穫する過程を通して「食」への意識を変える。例えば学内のゴミ分別やリサイクル促進によって学生たちの意識向上を図る…など。さらに、これらの活動から得たノウハウやデータを、これからの環境教育に役立つモデルプログラムや教材づくりに発展させるといふ、創造的な活動にフィードバックしています。「電気もガスもない、時計や携帯もない生活を体験して、これまでにいかにエネルギーを無駄にしてきたかを実感しました。自分たちで作った野菜や米を収穫し、味わったときの喜びも忘れられません。そんな思いや感動を次世代に伝えたいのです」と語るメンバーたち。21世紀の環境教育は甲南大学から広がっていくことでしょう。

